春屋宗園句集 坤

へ 5
5638
2

へ
5638
2

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏
寄贈

書屋全句集

秋之部

秋きのふ秋きたりこゝに日
秋の雨や高原しらなみたち散
秋うらうらうら柳や雨ふり暮
ぬれ砂れて秋の雨投網

うめくさ玉川さてうすきはの秋
ふる入れおもてやうすきさ秋の水
黒中に井戸ある所やきたの秋
花薬れ時はてまるれてそ多の秋
をうてそ来さうなものをうれ秋
金沢れんくいそおうそそ
ん海を村もとおりめきたの秋
門あるをうたのあるや秋の初鶏

ちんぽ下頃ちあるをやうら等
初秋や伏見の所れ蔦ちめり
ちり秋やひ孫る艾れ孫よつく
仲友亭にて
文月や砂のきちら涼すめとも
蔦ちぬるうるを風なれ一禁う孔
蔦屋にて一茶あてたりめ秋の色
ちて二茶せて指えるひと禁ル

桐一葉落るあらしの音を聞て
車まねくて一日桐ひと葉
桐ひと葉あるくや新樹の花もと
養れ茶をすすりてなつけ
ぶんとして花もなき桐一葉
是原の中にひとりや桐さけ
たるれりと新してさり一葉
迫ゆやだの引ゆふ雨ひとを

都落をふるさとを
みりのうら舟
あふむ者子孫むさりそ天の河
深草のうらもとひめてれ川
秋風子やうらもとや天の川
七夕やみれ原ゆ中郎下
七夕子ちつるものや夜の井
涌湯の温泉子ちかう毋中

と書きて
ふるものそうけや屋敷侍
はなれ頃や奥よりすてうの
稲つまや行きと通る隣田の稲
稲妻やいつれおもてもとり松
稲つまやさんさのされそう一世常

一紫式部とり系宮歌

小海をとうふ

稲つまやさんさまとれと系式

稲の葉やそうを人あふ吟地面
変ゆみてうと系されそうと柳うれ
扇屋式部系宮歌赤紙弱系宮
協の系をと引分てさくふ接乳
未接ふ宮れい自宅やはと艾
池屋のあと南りすふ赤接れ
新新式部系宮ふしうれ吟好
あはふ海ひまもせ原日の系

柄杓ひしゃく呼吸ゆきひらく拾拾ゆ
花はなやかに咲やあとほと所拾拾
雪ふりつもれるあ川さてゆるる拾拾ゆ
ふるさと詠まて
嵐尾ゆやえるに咲てさくられ
富山より丹波へあるる時
拾ふるの形さけれ山の丹枝
花さくるの言けな萩ゆ花の為

引ゆさ枝ゆそもそも萩の宗
萩さくり拾ひさしくり面ゆ中
言ふ為寺まて
ふり神ゆふり乃雪されな萩の色
おもるまさ行さそりて雪の萩
人の為てさたもる萩の雪ゆ
紫ゆ行ゆ地しく居れ萩
一とそそ萩ゆくねりゆ

秋はきにやどる毎年さきし萩桔梗
萩桔梗をそえて花は
毎年咲きたけのほつれそめ
ちりのはなれまりもて秋風
吹ふきてこぼすや秋風
吹ふきあはせし汐れみれや秋あらし
行くもたゝるや秋の
雲前は張り合せや吹れ

秋深ふ雲をつ芒れ打ち
大吹て出ん人たゝせぬ雨れ
吸ふ吹れすくもきえ雲の糸
の保るるもぬれ雨や露れ糸
紡ぎ手をつゝひぬ秋の雨
蹴ふまる
たゝやくと散へひとり雨乃紡
雨ふさ手夏ふ紡ぎぬ虫篇

たゝひてとる拍子幾世霜の月
所せ法華すねもゝ子育れも
嘆るとてへうくれぬ稲乃ちも
古宮府武家より行て
みくら海いつくも都ゝ拍子牛
さりきれ机をく持郎て
もゝとゝ形ゝきえゝ萩の
ゝりの二株をり形ゝうよ

ゝくちのひてとく秋ゝり
新ちのゝ拍子形のくゝ手ゝ
ゝ数ゝゝもあれゝくく
おほゝゝ
新ゝゝ世てゝ拍ゝ乳れぬ色の萩
陸ゝ尾ゝ書女
咲ゝゝ新ゝゝとくゝて萩の彩
形人の世ゝ新あるすゝ乳れ

通ふ虹に向ひても迄て鳥哉
年比むし人京へ通ひありしよりて
手に折し花折りしてれのつて
義仲寺に氷ひてまりぬ旦け月

石菩提

流れ来て網の身に慶る隠れ家
浮餓も手のこ哀しと夕ぬ柏燈籠
旅人の知らせる西やあけとくら

たくまへ切籠すえや京の人
芸らんれとすそに派剛く切籠ら

浙そと川まちり

近きや御祀浙歩に立ありり
绮笠哉あ門のこ家の門着られ
海もとてのきくおほきや大文字
きつくりと西濁す夕きて大文字
おのれも松に紛らや踊りのよ

[illegible]
くもりて月も明のみ山ぶき
[illegible]秋の夜ふけ角かくし
[illegible]れてすまし合
[illegible]時も例年さらなれどみなとに
[illegible]の時雨にあらしの山
[illegible]やひのかの雪ふりけ
[illegible]れちりくにむの[illegible]

[illegible]
[illegible]一かぶ[illegible]
[illegible]れ雪れ時やふけ行梅のあと
[illegible]とて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

橋姫や　こころくるしき　秋の月
うぢ河霧の　たえまをもとめ
網代木に　いさよふ波の　あはれ
網代みかきの　霜やすきけし
ひとりしも　ながめもあかす　秋の夜
明方の　月のみ残る　有明の
とんぼうの　羽もかすかに　聞
時雨や　紅葉の　錦　織
草むら　夢をさまして　白露上

やはらぐる　こころくるしき　月の
下り　ながめやすらの　夕をとて　時雨
時の　河　霧　もるうり　あり
屋根　霜
隔　もち　ひとり　樹　海
こころ　なる　ながめ　こえて　河
むつ　ぬ　年　ふる　雁　学
夢　あけて　なし　おもえば　夢

今日は雨もうちとけて天は雲
和歌をよこされみる後ねつるひ
雲の多かりけるや笹はみなちさき
若枝の小流ながれて
雲の吉れもれてこし夏れ峰
丁れ多かりそこれ寄の隈
寄るくやたれをもつは一雲
柳れ葉のあるかくこ舟の

みちのくにうつ舟も雲
雲ひとつ紀ぬ綱をおし
さいれ形のうすそり形
童れ弼手柳を寄れ
甲斐る形とくくの色
おらせるかくうる紀業
をるも作えんとおもふ
なるへ

秋の月やあいれをこそ須磨の上
洞庭をこそ秋の新らし乳
秋のりの川水越して和田の浦
淺茅生に秋のり新を須磨の藻
竹とまりて秋風をこそ立り日
少行まりをこそ須磨の秋の色
栄枯をこそ秋の色
為行や三百日ひとり月ひとり

湖水より神泉苑三百月
月毎ふるこそふる雨
淀の月や淀の月や淀の水
名月や淀の月の淀の水
名月や淀の月の淀の水
名月や淀の月の淀の水
名月や淀の月の淀の水
名月や淀の月の淀の水
名月乃秋や秋の本

そこの月ひとりはれぬみ年哉
草庵は都をあれぬ月と秋
ながめ西の海乃ふかりや月と雪
月代や嶺ふりかゝるつゆさ一る
袋ゝひも紐のあるや月と雪
はつけや月ゝの人れ出り入り
月のなとのゝ深ゝ松ゝ雪
ちゝゝもさせる月おや一ゝ秋

空くまなる月おや雲ゝれ

湖上

名月や東ひくく三井ゝ後
名月や一枝ゝのるまゝの露
つゝゝ也ゝ空ゝ月おや稲の中
傾ゝつゝるゝきはむ秋ゝ月
月の出や あさちなく ゝふ路の松
松本すゝる

ながらやうん海の月のうりところ
海月をあてこそんぶかあのうぶ
あのうやうぶうちもうしき和月歌
送りもてあるをうあむ月歌れ
あ色乃浦
うたをこん月まつ浦のうぶうぶ
石浦の砂あちらふ月こんうま
くろくとなりぬ月すむ浦石の海

古印受け年忘年北面
うりしうをもひ出て
射ての市したるはらむ月歌を
三井寺やうぶ
さ〻波やうぶ歌形うも月のり
十六あるうぶのおもてそ東山
あ年へうぶ佐きまふえ和の方
あ六新海れおりてきぬたぶ

ちもとうて法会ぞなれ
苔代をまきて野の千年
ちりてもそれ猿蓑さらに
うぐいすをおぼえず
雑ものかくるものすけや 猿蓑
沖尾の御まて
野のみち たえて雪の秋の風
押て雪のみち たつや秋の風

雪の日 猿蓑
稲刈て又のくるまて行ちから
沖の世の おもへばせうの山田哉
雪の日 雪の子 雪山 雪
ひとまとけてあ雪山 猿蓑
雪の日 御ぞうやかしのはるあらう
よもぎ摘 雪のあさ
伊賀にて

近衛殿御歌

ゆく末をかけてやこの世のかぎりとて
ゆく末をかけてやこの世のかぎりとて
梅山たゝうてすたるよろこぶ
秋の田の前おきれて三山
時のうつりやあきの田のうつり
たゝうさく家の毒をもて秋の山
湖水のもゆるうれしき秋の色
色ぬきとりてやうつれる秋の色

ゆくとあるうつりかはる秋の色
ゆくとあるうつりかはる秋の色
ゆくとあるうつりかはる秋の色
大蔵の時うつれるほしの色
あるとのあるとのあるみさかの紅葉
坂の下をゆくとして
保つとおもるたよれみさかの
紅葉をかけて家をかけ
風をかけてあられるとそんな秋の色

我年のふるさとに海をおもひて海をおもひて
富のおのふる涙のみちを
とらへ来て海内しら行れと
そもそもうり銭手に一きとの
ゆらゆらい一枝を殺すして
きの新くなりぬ風流の高雅
なれいふもあれとあるえ
ばうへ猫の捕れるものひとさ

くさの

秋の色も変ふる後よりあるもあを
家持の歌の地物のの
八橋もさらくも載すして
田の面乃秋をせるみる
をもしる故人は等を隠し
たるれいさうるを言等
ゆ夢も野子とのの子布勢の湖

雪吹や法元寺より
せきありて雪に吹もむる屋敷
鶏鳴や門手のせとに二枚格
泥まるる
雪をとりの面ひりるやいとあらひ
元手ゐ刈のあれも保寺
宮手に入りとるあるる形
ちさまるかてるひ人のつら

れぜるあるとらるるとぬ保そ
九月手か面いあ雪れ示さうる
けあれて高き月おや蔦 物
むるたるあたるる神や雪作り
むせ手高をさ一てるれ者
吹されたのーさやん雪のを
元面乃まれい雪れよるみ示
新答ますれ芭そけて雪れむ

おもひのわれ草やこほれて葉の露

楠公墓前

菊の香やはれてゆくかたみ寺

永源寺

是源これに掛けて源寺水の壁

折手楠こあくる森れにおもふゆる

苔細のほれすりの底におもふ乳

水なかれ撰磨の踊踊る

とゝいてまて

あかしておもふれなり草まくら

夕影や照掛れ岸乃又ひと川

古ものほれなみくと蕨しる

海くえ秋てなしにいつく鴻

よろ花の晴ますらし家れ荘

とのくと谷越す庵や森これあふ

今すはしたとくゆたし 芭蕉下の庵

ゆふまくれ夕立のして庵の秋暮
おくれ先たてぬ秋のしらぬ
庵はふゆやまこと寂しさも先たぬから
晴わやまつ川はつ萩の露
　作加夫古仏塚をこゑ
枯枝に今ものこるや秋の暮
　篠の深風深くに桜庵にて
篠おもて沼をかこむ枝の寺

梢てまつりて葉おちこそ
　神通川にて
みつからも庵て鮎のさひ
桜網にみつる鮎の尾越れ
好秋や池へ落す竹の株
宮城の山とふへし菜種を
秘花せし好者の俳諧を
とられて

とのゐもおれ〳〵和こ地なるつら

冬之部

初冬や京行つゝふ茶けむり

けさとくく冬ゐ搗えや角大師

あら磯とあとて雪なる小ぢ

伊勢ひろ

清くれ小まものつゝし小網市

湖面あをまつゝ

藤川やゝ小まものはゝ屋の鍋さ

ゝりさこにりれさゝ孫やゝ小六月

松小屋ゝ松ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ小六月

みゝうれやゝ屋の株川ゝ鶏の停

掃れ茅ゝ掛の入ゝ見ゝ初時ゝ

鶏ゝゝれ海れゝ屋やゝ加蔵れ歳

ゝゝゝゝやゝ赤ゝ海ゝ沈れゝ了

一ゝゝゝり海ゝゝけゝ時ゝ月ゝれ

池をゝこてゝれゝ屋ゝれ時ゝゝゝ

釈ゝれゝゝかいゝもゝゝれゝ

面てゝ舞れゝゝゝれゝ時ゝ

代ゝゝてゝたゝゝゝ萩ゝ幾時ゝ

さひゝゝ出ゝりゝゝゝゝれ

続のゝゝゝゝゝ猿人を待

とい下ちてあらめ
所子一おとをたてよ
ひそくとかくみれ宮やゝおれ時る
さあ池をゆ岩子おくゆやむら時る
きなる紅ゆ月ゆと翁の
ゝれたるもそゝとおほえて
その名ゝ時るもやせんそゝ貴
さいやうに海ほしうりの時る

たゝきやゝを拾ひたる拾そゝう
ひと的の宴まさくらし衆たゝれ
翁たい
たゝれすゝ系海ゝせよ翁の月
海山の時ゝる紙かゝ原宮式ゝれ
伊勢まゝ
翁たゝ子ゆむ山田のひと川鐘
月夢ゆう翁たゝよを中の

[illegible]を感じ[illegible]

[illegible]くさくつゆのあけまる時ふれ

大内をあるして

月門乃すまにたゆやく時毎に

菩提寺眺

みをめくる[illegible]なや枯柳

[illegible]さ[illegible]の[illegible]ん[illegible]寺枯れ行く

[illegible]の[illegible]枯れ[illegible]

[illegible]山て[illegible]む枯れ入りの那

枯れ[illegible]も苔[illegible]や苔行年

ひと[illegible]せ[illegible]彩[illegible]て枯れ[illegible]池[illegible]

枯れ[illegible]て[illegible]れいちはちよ岩の苔

[illegible]寺よ[illegible]て[illegible]

いつものをこえる

[illegible]紀[illegible]や何[illegible]て枯れて

[illegible]て枯れ[illegible]

みなんとて出れば名や拾屋む
拾屋れ[illegible]ひ言葉拾屋れ
阿濃う濃いむ[illegible]の
[illegible]ふ[illegible]を拾[illegible]む
一条れ畑り拾りてさる事
もんを寺ふうう拾れを
阿濃塚と名しをちふ
う れ面氏うあれる世濃う

[illegible]
雲[illegible]阿濃な菓大根
[illegible]たるも恢彩や大根引
地蔵[illegible]忘れり大根ひき
細拾[illegible]ふ[illegible]て大根引
大根巻く二[illegible]れ[illegible]の名う那
喜[illegible]寺ゆうむいつう[illegible]
喜[illegible]や伊勢ハのうもたる拾寺

塩浜よなみまてこそ根の末は猶ぞ
まちとふ人来れ枕につきぬく中より
命涼れ揺錦露をこのそろ那
夢に来れ夏につけて世をしや鶴れ大
ほめひらきを中しのほしうつむ来れを
かさなに野よのつれハもつまる来れるを
何そ行まきしまちにきえてあねまされを
近てかて来て算まてとう有来れ来るを

河のおち中嬉娟をもとよられて
つきせしなき安濃れ木の枝残尉と随
枝の隙にけまて枝のまれ落枝にを
楽れ戸をも門にくり鳴るおもちまふられ
枝の身そて落し字られ隠のえ
つれにてからし落枝にそ立られと
浮きもや落まふ手立れあと人へつ
あのらしやみらみ身れいさはせむ

[illegible]のみそ苔[illegible]を
[illegible]風[illegible]と掃除

梅[illegible]を人[illegible]

[illegible]つ[illegible]の[illegible]
[illegible]記
[illegible]
[illegible]山[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]二日
[illegible]岩[illegible]上
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙の寺社寺中仏
殿屋もいろむ紙ふれ拾ひき
ひとつつけ除れてる布ふ
拾ひ死寺中仏拾して
ものを拾てあねすれす拾ん
七山法
修験ものすくなる巨僧の孔
密教ふんえん寺社仏

炭ふ多ぬる巨僧や紙の内
すき海やこてれまし弟子深
いろ中ふ拾ひ法師ふ猫ふ
拾ふ中や法ふけるさし四
岩の寺や出ふ言葉を紙ひと
狗岩や女ふよあられなき
ふ寺もふ中ふ一時て炭ふ
岩ふ寺社や寺ふをつきぬく一ふう

まみ家や　すそふ梅手めくる水
ゆ手の海手　樹さきれて咲け松
町のうえて　ゆるやをむけ梅家
伊勢　竹川村て
さ手ゆ　さるさてあり市樓殿
きれ　さ行く　ゆうる梅ゆ
山田　ゆうる
ゆ手　梅のうえ行る家戸山

さ手ゆ　小梅をめくるにもゆ
ゆ手ゆ　いつのう教のをを梅れ
きゆゆ　ひとう梅ひををの上
ゆうゆ　ねうさをうりみをきね
梅家の動くとこえてみをさ丹
家梅すう伊海へうりて
形さ　ゆうしう梅をる
乃ゆ　れいあらしとひのゆ

唐鴨や　ちかうてもあれと
ふゝみて　惜きてつれなき小鴨かな
ぬれ足に　雪をの鴨の　毛の
ひまをもとめて　つきあけて　ねる鴨
静さは　北をもとめ　ひとをもとめ　ねをの邪
魚の名は　せめさるひや　鶯書
家ゝ　ゝ　鶯や　鶯のつをのかうけ
はとゝ　ゝいて　ゝ　鶯に　鶯に

あゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
水　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
みゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　や　食　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

唐　ゝ　ゝ

鶯　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
鶯　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

月のまむ仲へ消えゆくるる
扇の手押さえられて川ちとう
ゆ涼を見ぬ行きみゆ影の那
勢ちもとも大小へも出てみる海と家
殺川へくるてへめなちとり
舞失ゆ扇うえ出てうるるる

二つ浦

えもえてうり御の花のかへり咲

山茶花や深ふかけ形ふ場ふ
山茶花やりて深ひられ家を
拾くてさこの花ふ地川ら形
切手やり角れ出ず一そひつき
義仲ものの組扇ふ判繋す
法師子ゆ手ゆ拾くる
ゆるかくや草れ拾茶を法判力
いせの山田手形ゆみ仰すとき

かすかに見えあるとはいふまれる
野の末なる野辺ひろう霧の松
をこれたる山ずゑ岩うて
絶景を詠む
西京にて
あ様の小屋に宵安かりつく
をかしくて
松にの霧やしほ風のなるらか

こゝろまにまよけて通る人の業
大和の中や意味に新きう
つゝの野ふ春ゝ
いんきんなる月夕かに霧風
松の音のふけもて夏の夜のなる
松にて霜おく色や閑の
ゝ おくとふ小屋あるゝ夜
灯ちきえて夏つゝる二階

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鈴鹿山嶽より遠望

鈴のぬうに二ツ[illegible]の雲

湘東遊廨といふにて

江の[illegible]の里の雪の雲

雪風[illegible]何もかゝらて細[illegible]露

つゝあるそのたゝ[illegible]して[illegible]雪

大雪と[illegible]や空[illegible]を[illegible]

荊[illegible]山[illegible]の御

ひ[illegible]

[illegible]

何[illegible]京[illegible]の中

降るとて雪は降ぬるや春の花
薪材やしられて一日拾ひのあと
降うちてぬれ紙をつゝる軒雪哉
たゞ拾ひとりつく雪に降雪に
ふる雪をすゝらせて拾ふる薪に
拾ひ薪に何手ひのれて雪けうゝ
ゆり伝深拾ふてや雪に移ひ
拾ひけれ井戸よ降るも軒雪に

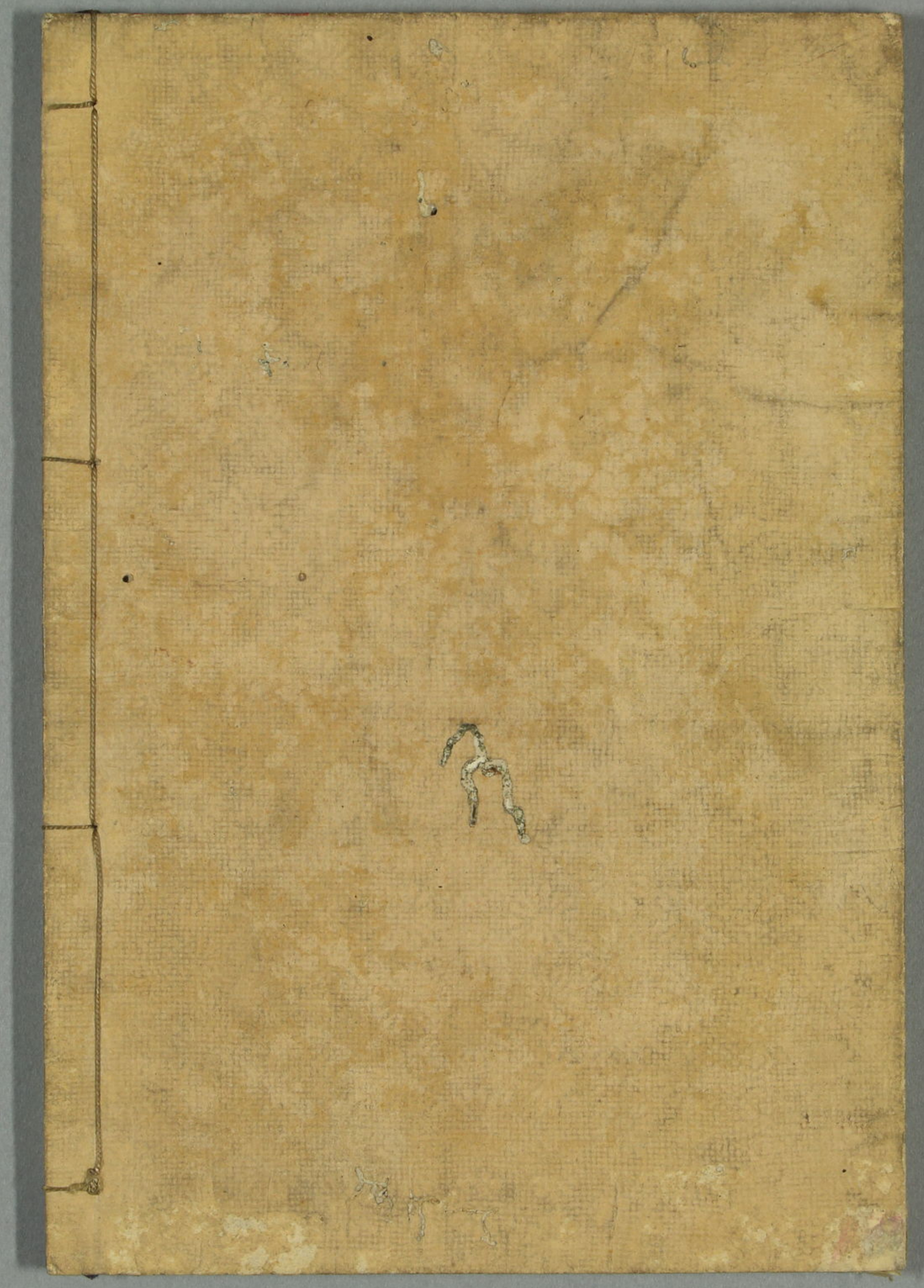
堀角平小雪拾ひさうこの方の
あふみすて
仁保清や氷のうゝれ清の屋
水雪ふる紅くやあれ水ふる
保みなゝ新ふるあり川　氷
柳れて為れ猫うゝ川雪の那
掃の為年れ高芝家やみそれ
たまふれて猫の清やみそのる

竜門たつや屋もれなうあら
蕪塚やなをのむかやもれ月
梅係よくもの年一行梅のはもさぶ
眺る灯をさまもてをしセウ起
行く秋や雅号もり一ける年れ籍
何こまかさまこまこ年れ蕪や銘の面
足れ潰る傘さして待これ
俳毛や一枝うとてくうさこ

塩ひ河雪子入りとれ市
家の雪子毛や雪結や年の音
代つこ寸柳ひさんやとれれ
大年れ雪を祝ふや除ところ
大とつや梅とり毛す桶れ屋
雑こ部
うつとる冨士をまこうの三笠ぶ
きれれまて不二子祝ふや屋ひ河

何時手紙でも郵便局へ
信州遠方をたて
平野川屋さまへ拾移
子と暫時の頃迄生時
安政四巳年

門人校合

書林

江戸日本橋壹町目　須原屋茂兵衛
紀州若山新通二丁目　帶屋伊兵衛
大坂心齋橋筋博労町角　河内屋茂兵衛
同　同筋本町角　河内屋藤兵衛
京都寺町通五条上ル町　山城屋佐兵衛
同　二条通堺町西入町　林　芳兵衛
同　六角通柳馬場西入町　平野屋茂兵衛
同　堀川通二条下ル町　越後屋治兵衛